

転院時の移送について

不妊治療をしていて、凍結胚があるのに転院を余儀なくされる場合があります。その場合、凍結胚、凍結精子、それらは移送できるのでしょうか？ また、移送先で受け入れは大丈夫なののでしょうか。双方の方法についてお聞きしました。

8-1

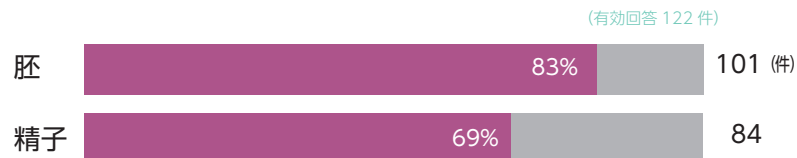
移送ができるもの

凍結胚と凍結精子について、転院時に移送できるとする回答は 122 回答中、胚が 101 件 (83%)、精子が 84 件 (69%) でした。胚の移送が可能とする施設は 83% ですから、今までの様子から考えると増えている傾向にあるようです。

転院する時に胚や精子の移送はできますか？

胚や精子は患者さんの大切なもので管理には治療施設の大事な技術が注がれているため、治療施設にとっては、できれば移動は避けたいとの思いがあるようです。しかし、自由診療であれば問題はありますが、保

険診療では採卵から発育した胚は全て移植しないと新しい採卵周期に入れないため、今後は胚や精子の移送はより増えていくケースが出てくるでしょう。受け入れる側と移送方法も気になります。2、3、に続きますので見ていきましょう。



グラフ 8-1 移送ができるもの

8-2

受け入れができるもの

前問同様に凍結胚と凍結精子について、受け入れができるとする回答は、胚が 107 件 (88%)、精子が 97 件 (80%) でした。移送よりも受け入れの方がパーセンテージは高く、その理由としては、患者さんが減る立場と増える立場の違いもあるのかもしれませんが、また、保険診療では「どこでも同じ治療」という前提があるため、妊娠へのプレッシャーも和らぐことも理由にあるのかもしれませんが。

男性不妊症での TESE、MD-TESE の場合であれば、移送後は受精作業があるため、それも数字に表れているのかもしれませんが。

転院する時に胚や精子の受け入れはできますか？

送り出す側と受け入れる側、どちらが気を遣うか、リスクを伴うかの判断にもなるかと思いますが、受け入れる方が若干気遣いが和らぐのかもしれませんが、その結果が前問よりも多い数字に出ているようです。



グラフ 8-2 受け入れができるもの

8-3

移送する方法

方法については回答 122 件中、患者自身とするところが 84 件 (69%)、移送業者とするところが 89 施設 (73%) でした。

実際に移送する場合、業者さんが移送してくれるの？ それとも患者さんが自分で行うの？

移送に関しては、移送業者によるトラブルが起きないよう信頼できる業者選びも必要です。移送に関しては、通院先の医療機関で信頼できる移送システムが確立していると思われがちですが、

個人責任で、個人での業者選びになるケースも今回の結果から多いことがわかります。その辺は気になるところです。



以前はよく、ART 施設間の技術差などもあり、受け入れを断るケースもあったようですが、凍結技術の進歩と安定化によって移送への信頼が高まってきているようです。基本的に保険診療では、採卵した卵子から発育した移植可能な胚は、全て移植しなくてはなりません。そのため、胚の移送をしないと移植に保険が適用されず、凍結胚を残したまま転院したのでは、新たに始めた採卵は自由診療になるとの理由が大きいことでしょう。

ただ、業者とする回答と患者自身とする回答には差がなく、患者個人で業者委託した場合などにトラブルの発生はないものか、システムのなことや取り扱い企業情報なども知りたいところです。

実際に、患者さんが自分の手で運ぶケースもあるようです。

胚の移送に関しては、運搬方法も含めて治療施設と相談しましょう。

グラフ 8-3 移送する方法